

「原口総務大臣との意見交換会」における東京都の発言要旨

< 石原知事の発言 >

2016年オリンピック・パラリンピック招致について

オリンピックの招致で民主党政府と知事会の皆様に大変お世話になり、ありがとうございました。



地方自治体における複式簿記・発生主義会計の導入について

太政官制度以来続いている中央官僚の統制支配というのは、自家発生的にいろんな無駄を生んできた。その大きな要因の一つは、近代国家としては稀なる日本の会計制度だ。この単年度主義というのは滑稽千万で、日本以外の先進国で複式簿記・発生主義会計をやっていない国はほとんどない。発生主義、複式簿記にしないといけないし、そうしないときちっとした財務諸表が出てこない。財務諸表が掴めなければ無駄は見えてこない。是非新しい政権で、国全体の会計制度をきちっと変えていただきたい。財務省はなぜか非常に嫌がるんですね。

法人事業税の一部国税化の即時撤廃について

福田内閣時代に、財務省の横暴で伝家の宝刀が何か知らないが、東京も狙い撃ちされて、実入りのいいいくつかの自治体の法人事業税（地方税）を一方向的に（国税に）替えられて、3000億取られることになった。親が子供の財布に手突っ込んでくる、こんな馬鹿な話はない。衆議院では、田嶋さん（田嶋衆議院議員）など多くの民主党の議員の方がこういうやり方を反対だと言っていた。これは地方の主権っていうものを犯す最たる事例なので、撤回して考え直していただきたい。強くお願いする。

< 原口総務大臣の発言 >

石原知事がおっしゃったことは、まさにこの単年度主義の弊害、その通りだと思う。

そして地方財政に手を突っ込んでくる。これはもう許せないことだ。

公会計制度の大きな見直し、私たちが今回中央政府の予算をすべて細目、細々目まで見た。そうすると、逢坂衆議院議員が中心でやってきたことだが、右と左が合わないものがたくさんあった。これは埋蔵金に対して私ども砂金といっている。そんなお金があるんだったら地域に。やはり、悪代官が困ると国民を絞る。私たちが絞るべきは国民ではなくて地域ではなくて、やはり中央政府の無駄だと思う。

